



オキシジミ絵図 目八譜 天保 14 年(1843 年)

羽田空港 A 滑走路周辺海域はアサリ・ハマグリ漁場であるが、オキシジミが増えるようになると、環境が河川域化するため、アサリ・ハマグリへの影響が懸念される。

オニアサリ *Protothaca jedoensis* (Lischke) (目八) 鬼浅蜷



マルスダレガイ科 殻長 3cm。殻は堅固、良く膨らむ。殻表には強い放射肋と成長脈が交差し、部分的に布目状となる。分布は北海道西部以南。

カガミガイ *Phacosoma japonicum* (Reeve) (目八) 鏡貝

マルスダレガイ科 殻長 6cm。円形で膨らみは弱く平たい、殻は白色。分布は北海道南西部以南。

殻が大きい割りに身が少なく食用とされない。和名は、殻頂部が少しくびれている形が、古代の手鏡に似ていることから名づけられた。



カコボラ *Cymatium (Monoplex) parthenopeum*
(Salis Marschlin) (六介) 加古法螺



フジツガイ科 殻高 10cm。殻表に長い剛毛のある厚い皮があるが、殻色は褐色、殻口周辺は黒色、奥部は白色。分布は房総半島以南。

食性は肉食性。外海の海岸岩場に生息する。東京都内湾では初記録（2014年11月 羽田空港D滑走路沖側、底刺網、殻高9.5cm、殻径5.5cm）。

名前の「加古」は地名に由来すると兵庫県瀬戸内海側、現加古川市ではないか、または船乗りをあらわす「水手（かこ）」で、船乗りによってもたらされた貝の意味かもしれない(岡本. 奥谷 1997年 貝の和名)

カコボラの軟体部は、目玉を連ねたようなグロテスクな模様。とても食欲のわく貝とは思えないが。茹でた足部は甘みがあり美味しいと言う。但し、内臓にテトロドキシン（フグ毒）、唾液腺にも毒があるので、事前に取除く必要がある。